2015年4月
県議選

「戦争する国」づくりノー!!
くらしの願い実現に
トコトンがんばる

県議会議員

市谷とも子

日本共産党

県政に送り出していただいて8年、県民の声を届けつづけてきました。

このなかで、子ども医療費補助を中学3年まで拡大でき、企業立地補助金を県内中小企業が使いやすいように改善させることもできました。

政治は、すぐには変わらなくても、あきらめずに声と願いをまっすぐ届けていけば、「必ず政治は変えられる」「県政を動かすことができる」――これが、私の確信です。

県民のくらしと地域経済を支える県政へ、もっともっとがんばりたい――いま、この思いでいっぱいです。

市谷知子のプロフィール

●1968年生まれ●鳥取西中、鳥取西高、鳥取大学教育学部卒●教員、病院勤務ののち、日本共産党に勤務。●党中央委員・県副委員長●県議2期●鳥取市西品治在住●家族／夫と1女。

鳥取民報
2015年号外

日本共産党の見解をご紹介します。
連絡先●鳥取市吉方 168-8　TEL0857-22-8369　FAX0857-22-8360

市谷とも子さんの活躍に期待します

●子育てで修学資金の返済に困ったときに助けていただきました

江原 真由子さん（27歳）

3人の子どもを抱え、出産・育児で仕事をやめないといけなくなり、看護学校修学資金の返済に困ったとき、相談にのっていただきました。

子育て中のお母さん、お年寄りなど、弱い立場の人の力になってくれる人です。

●就職難やブラックバイト…。私たちの声に丁寧に耳を傾けてくれる人

是枝 清一さん（23歳）

いま、私たちは、就職難や長時間労働、ブラックバイト、奨学金の返済など様々な悩みを抱えて生きています。そんな私たちの声に丁寧に耳を傾け、ナマの声を県政に届けて改善しようとされた市谷さんの存在は、とても心強いものでした。私たちも一緒にがんばりたいと思います。

●会社の門前で励まし、議会でも取り上げてくれもらい、うれしかった

三洋電機元労働者（50代）

解雇されて仕事を失いました。50代なので、仕事もなく、生活も苦しい毎日。40代の仲間は、子どもの教育費や生活費の工面で涙が出るといっています。市谷さんが会社の門前で励まし、議会でとりあげてくれて、うれしかったです。これからもがんばってください。

●生活の支えまでうばう県に、怒りをもってがんばっていただきました

児童手当差し押さえ訴訟原告のAさん

生きていくための手当まで差し押さえた県に対し、怒りをもってがんばっていただきました。生活の支えを奪うようなことがもう起きないよう、そんな社会にするために、市谷さんはなくてはならない人です。

●“県民の良薬”としてがんばっていただきたい

医師・守山 泰生さん

命を救う、いま最高の治療は、政治を変えることではないでしょうか。若桜町で、轟音つんざく米軍機の低空飛行訓練を目の当たりにして、つよく感じます。こういう国の問題でも、市谷さんは県民の立場にたち、政治をただすためにがんばっています。

県民が幸せを実感できる世の中になるよう、“良薬”としてひきつづきがんばっていただきたい。

©カクサン部！

ぜひ、お聞きください。

日本共産党演説会

とき 3月14日（土）午後2時～　ところ 鳥取市文化ホール

一人ひとりの声と願いが原動力

力をあわせれば政治は変えられる

市谷とも子

共同――党派をこえて力をあわせる

●米軍低空飛行訓練を止めよ

「突然山の間から出てきて超低空で飛行。それが反響して轟音。まさに音の暴力だ」―。

若桜町長や日南町長の要望を聞き、中四国防衛局に「米軍機の超低空飛行訓練は中止を」「せめて、騒音測定器の設置を」と申し入れ、知事も国に要望するようになりました。

「働き方アンケート」の結果を鳥取労働局に届け、懇談

●若者を使い捨てるブラック企業を告発

広がる非正規や低賃金、ブラック企業――この間、市谷議員がとりくんだ「若者働き方アンケート」には、深刻な労働の実態や切実な声が多数寄せられています。

その実態や声を県や鳥取労働局に届け、「人間らしく働けるルールを」とがんばっています。

提案――声をよく聞き研究、改善策を提案

●企業立地補助金を県内企業が使えるよう改善

企業立地補助金が実際に雇用拡大に役立っているかチェックすることと、県内中小企業が使える制度に改善することを提案。2010年2月以降、県内中小企業に66件・約21億円が補助されました。

●30人学級を小・中学校全学年に拡大

30人学級の拡充をねばりづよく求め、小学1・2年生30人以下、中学1年生33人以下、小学3～6年生と中学2・3年生が35人以下学級に前進しました。

●現場の声をよく聞いて

現場の声をよく聞くことが、市谷議員の力。農地災害対策予算の増額、看護師の修学資金の返済を妊娠・出産や育児（3歳未満まで）で退職中は猶予できる制度などが実現しました。

農地災害の現場を調査、要望を聞く

対決――まちがった政治に立ち向かう

●「海外で戦争する国」にはさせません

「憲法9条のもとでは海外での武力行使は許されない」としてきた憲法解釈を、一片の「閣議決定」で180度転換。安倍政権がすすめる「戦争する国づくり」は許さないとがんばっています。

県議会での追及

●「児童手当」差し押さえは許せないと、国・県を動かす

県税の徴収を振りかざし、児童手当まで差し押さえる――こんな〝血も涙もない〟やり方は許せないと立ち上がった人たちと力をあわせ、国会と連携して県議会で追及。財務大臣は〝児童手当を使えない状況にすることは禁止〟と表明。裁判所も〝県のやり方は違法〟と裁定。児童手当は本人に返還されました。

これを受け、市谷議員は知事に謝罪を要求。知事は〝納税者に迷惑をかけた〟と謝罪しました（13年11月議会）。

県政・県議会のここが問題

呼び込み型開発の破たんで巨額な補助金がパーに

一社最高50億円と全国トップクラスの企業立地補助金。鳥取三洋は合計40億円の補助金を受けながら、撤退。巨額の補助金がムダになりました。

県内企業や人材の育成に力を入れないでおいて、県外から「お金」で企業を誘致してくればいいとばかりに、補助金拡大をあおってきた自民党や公明党の責任も問われます。

いつまで続ける?? 韓国企業への補助

ロシア・ウラジオストックなどとの交易をさかんにするという政府の「北東アジアゲートウェイ構想」にとびついて、韓国企業（DBSクルーズフェリー）を支援。「当初3年間の赤字補てん」だったのに、5年間でおよそ2億円を支援。6年目の今年も支援を継続――韓国は支援をすでに取りやめています。

県民のくらし中心に切り替えて

くらしの安心広げる県政へ

子育て応援
- 保育料の軽減と保育所の増設、学童保育の充実。
- 子どもの医療費は窓口負担も無料に。

若者に希望を
- ブラック企業を規制し、人間らしく働けるルールを。
- 世界では学費は無償――給付制奨学金を日本にも。

くらしを守る
- 高すぎる国保税の引き下げ。
- 最低賃金を時給1000円以上に。
- 中小企業の振興・支援策の拡充。
- 農林漁業の振興と後継者支援の拡充。

原発ゼロへ
- 島根原発の再稼働中止。
- 自然エネルギーの普及と支援。

実現をめざします